

大人に贈りたい『自分をみつめなおす』絵本

絵本は子どもだけのものではありません。絵本には、絵の魅力と詩などから得られる不思議な力があります。4月は新しいことが始まる時期です。今回は大人にお勧めしたい自分を見つめなおす絵本を紹介します。

1冊目は、レイフ・クリスチャンソン/文・ディック・ステンベリ/絵『じぶん』です。

「考えたことがありますか。自分にできること～」で始まる絵本は、こころの問題をテーマにしたスウェーデン生まれのシリーズ絵本「あなたへ」のなかの1冊です。

自分の体を持つすべての機能には、思っている以上に可能性があります。目では世界をしっかりと見ることができ、足はあなたの待つ人のところへ連れていってくれる、腕は傷ついた人をゆったりとつつむことができます。日々の何気ないささやかな暮らしの中で過ごす自分を愛おしく思える絵本です。

2冊目は、マーガレット・ワイズ・ブラウン/文・レナード・ワイスガード/絵『たいせつなこと』です。

コルデコット賞を受賞した画家レナード・ワイスガードと世界中で愛され続けてきた絵本作家マーガレット・ワイズ・ブラウンの作品です。

「あなたにとって、大切なのはあなたがあなたであること」と締めくくる絵本は、生きているものには、多種多様な個性があることが自然であり、あるがままの自分であることが尊いことである伝わってきます。また、優しい色合いの絵と詩がうまく組み合わせられて描かれ、読み進めるうちに豊かな気持ちにいきなってくれます。

原書である英語絵本「The Important Book」も当館に所蔵しており、英語での表現も味わっていただきたいです。

3冊目は、内田也哉子/文・渡邊良重/絵『Brooch ブローチ』です。

渡邊良重さんの繊細な美しいイラストが、薄紙に印刷されていて、数ページ先まで透けて見えるような仕掛けを施した一冊です。1ページ1ページ絵画を眺めているような満足感があります。自分に大事なものは何なのか、どこにでもあるようでどこにもない。それは自分自身の心の奥を覗いたような感覚になる絵本です。

どの絵本も、日々の生活で自信や希望を見失いそうになった時に開いてほしい絵本です。自分を愛おしく思えてくる、そして勇気や希望が生まれてきます。

ぜひ図書館にご来館の際には大人の方もぜひ絵本を手にとってみてください。お待ちしております。